

科目名 (英)	精神医学 ( Psychiatry )	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	白木達也
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	前期 水曜 3・4限
教員の略歴	2010年 東北大学医学部医学科卒業 医師免許取得 仙台赤十字病院、東北大学病院、東北薬科大学病院、仙台市立病院を経て、東北大学病院精神科に勤務。						
授業の学習内容	理学療法士に必要な精神疾患の病態・診断・治療について学ぶ						
到達目標	精神疾患の概要、治療について理解を深め、理学療法士国家試験の過去問を解くことができる						
評価方法と基準	定期試験(100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/21	講義	精神障害と精神医学について述べる事ができる	講義の復習を行う事
2	4/21	講義	精神障害の成因と分類について述べる事ができる	講義の復習を行う事
3	4/28	講義	統合失調症の症状について述べる事ができる	講義の復習を行う事
4	4/28	講義	統合失調症の分類について述べる事ができる	講義の復習を行う事
5	5/12	講義	統合失調症の治療について述べる事ができる	講義の復習を行う事
6	5/12	講義	気分障害について述べる事ができる(1)	講義の復習を行う事
7	5/19	講義	気分障害について述べる事ができる(2)	講義の復習を行う事
8	5/19	講義	神経症について述べる事ができる(1)	講義の復習を行う事
9	5/26	講義	神経症について述べる事ができる(2)	講義の復習を行う事
10	5/26	講義	心身症、薬物関連障害について述べる事ができる	講義の復習を行う事
11	6/2	講義	認知症の症状について述べる事ができる	講義の復習を行う事
12	6/2	講義	認知症の分類について述べる事ができる	講義の復習を行う事
13	6/9	講義	認知症の治療について述べる事ができる	講義の復習を行う事
14	6/9	講義	てんかん、児童精神医学について述べる事ができる	講義の復習を行う事
	6/16	試験		
15	6/22	講義	精神保健福祉法について述べる事ができる	講義の復習を行う事
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				



科目名 (英)	精神医学 ( Psychiatry )	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	白木達也
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	前期 水曜 3・4限
教員の略歴	2010年 東北大学医学部医学科卒業 医師免許取得 仙台赤十字病院、東北大学病院、東北薬科大学病院、仙台市立病院を経て、東北大学病院精神科に勤務。						
授業の学習内容	理学療法士に必要な精神疾患の病態・診断・治療について学ぶ						
到達目標	精神疾患の概要、治療について理解を深め、理学療法士国家試験の過去問を解くことができる						
評価方法と基準	定期試験(100%)						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1	4/21	講義	精神障害と精神医学について述べるができる	講義の復習を行う事	
2	4/21	講義	精神障害の成因と分類について述べるができる	講義の復習を行う事	
3	4/28	講義	統合失調症の症状について述べるができる	講義の復習を行う事	
4	4/28	講義	統合失調症の分類について述べるができる	講義の復習を行う事	
5	5/12	講義	統合失調症の治療について述べるができる	講義の復習を行う事	
6	5/12	講義	気分障害について述べるができる(1)	講義の復習を行う事	
7	5/19	講義	気分障害について述べるができる(2)	講義の復習を行う事	
8	5/19	講義	神経症について述べるができる(1)	講義の復習を行う事	
9	5/26	講義	神経症について述べるができる(2)	講義の復習を行う事	
10	5/26	講義	心身症、薬物関連障害について述べるができる	講義の復習を行う事	
11	6/2	講義	認知症の症状について述べるができる	講義の復習を行う事	
12	6/2	講義	認知症の分類について述べるができる	講義の復習を行う事	
13	6/9	講義	認知症の治療について述べるができる	講義の復習を行う事	
14	6/9	講義	てんかん、児童精神医学について述べるができる	講義の復習を行う事	
	6/16	試験			
15	6/22	講義	精神保健福祉法について述べるができる	講義の復習を行う事	
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】 □ 標準 理学療法学・作業療法学 精神医学 第4版(医学書院)					

科目名 (英)	老年学 ( Gerontology )	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	佐藤美紀
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (1単位)	開講区分 曜日・時限	前期 火3-4限
教員の略歴	臨床歴: 1983年4月～1994年3月総合リハ病院勤務。1997年4月～2001年3月デイサービス勤務。 2002年4月～2007年12月病院・老健施設勤務。2011年4月～2015年12月病院勤務(顧問・指導)。 2014年4月～高齢者の健康増進教室。 介護歴: 2009年2月～2012年3月、2017年6月～高齢者介護。 講師歴: 介助法講師。臨床動作分析講習会講師。他						
授業の学習内容	①日本は超高齢社会となり、高齢者の人口率が高い。臨床実習に於いて高齢者を担当することになる。高齢者の場合、本来の病気や障害に加えて老化に伴う変化もある。より質の高い適切な治療を提供するため、老年学を学ぶ必要性が高い。 ②人間発達学の教科と関連が深く、整形、内部障害、日常生活活動学等の理解を深めるための位置付けとなる。 ③年齢に応じた理学療法を展開できるようになって欲しい。 授業では高齢者の特性や疾患を学ぶことで、年齢に応じた対応を知ることができる。						
到達目標	①高齢者の特性を説明することができる。 ②高齢者に特徴的な疾患の病態・治療・予防の関連を説明することができる。 ③高齢者に向けた行政の対策について説明することができる。 ④加齢に伴う運動・心理などの変化、その対策を述べることができる。						
評価方法と基準	1) 定期試験(80%) 2) 出席率・授業中の参加度(出席、参加、課題20%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月9日	講義	加齢と老化の違い、老化の特徴、高齢者の健康増進のための行政の対策が説明できる。	
2	4月9日	講義	加齢に伴う生理機能の変化を説明できる。	生理機能とは何か
3	4月16日	講義	加齢に伴う運動機能の変化を説明できる。	筋力低下・可動域制限について
4	4月16日	講義	高齢者の心理機能の変化を説明できる。性別による違いを述べられる。	人間発達学の各時期における課題
5	4月23日	講義	高齢者に接する際に年齢に応じた対応と評価を工夫することができる。	
6	4月23日	講義	高齢者の精神面(鬱、認知症)の特徴を述べることができる。	臨床心理学の鬱の復習
7	5月7日	講義	高齢者の循環器の病態と特徴を説明できる。	心・肺機能の生理学の復習
8	5月7日	講義	高齢者の運動器、耳・目の疾患の病態と特徴を説明できる。	眼・耳の解剖学の復習
9	5月14日	講義	高齢者の消化と排泄の病態と特徴を説明できる。	消化・排せつの生理学の復習
10	5月21日	講義	高齢者の代謝、免疫の変化を説明できる。	感染対策について
11	5月28日	演習	高齢者を取り巻く環境の問題とその解決策を工夫することができる。	
12	6月11日	演習	高齢者の年齢に応じたリハビリテーションの進め方を工夫することができる。	
13	6月18日	演習	認知症のリハの進め方を工夫することができる。	
14	6月25日	講義	医療の現状と終末期医療のあり方を述べられる。	
	7月2日	本試験		
15	7月9日	講義	(復習・まとめ・テスト解説) 不明な点を明確にできる。	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】資料配布 標準理学療法学・作業療法学(医学書院)				

\* 1～6はオンライン授業(火曜日1・2限目)。7以降は社会情勢で決定。

科目名 (英)	社会保障制度論 ( Social Security )	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	高梨友也 千脇隆志
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期
教員の略歴	【高梨】社会福祉士として、障害者・高齢者福祉施設において生活相談員、管理者、施設長として勤務 【千脇】社会福祉士として、高齢者福祉施設において生活相談員、管理者、施設長として勤務後、社会福祉事務所開設						
授業の学習内容	①現代の社会保障制度は、人口動態や世帯構造の変化、国家のあり方など、制度の背景となる時代や政策が大きく変化しながら推移しています。特に我が国では、人口減少や少子高齢化など喫緊の課題があり、制度の持続可能性を含めた検討と取り組みが求められていることから、歴史と現状を学ぶ必要があります。②社会保障を構成する医療・公衆衛生・社会保険等の各領域を含めた上位概念として「社会保障」があります。③社会保障領域に携わる者として、それらを理解し、他領域の人々に説明できるようになることが必要です。						
到達目標	①社会保障の基本的な機能と役割を理解し、国民生活に沿った形で説明できる。 ②社会保障制度の構造と必要性について、他者に説明できる。 ③社会保障制度における自分の位置が理解でき、そのなかの役割を説明できる。 ④自分の役割を理解したうえで、他領域とどのように連携していくかをイメージできる。 ⑤生活支援を必要とする人に、活用できる制度を説明できる。						
評価方法と基準	1) 定期試験60% 2) 授業内レポート20% 3) 授業内活動20% 4) 到達目標の①②③について、80%以上理解すること 5) 到達目標の④⑤について、60%以上理解すること 6) 準備学習と時間外学習を課し、その達成度が60%以上であること						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月9日	講義	社会保障の概念を自分の言葉で説明できる	教科書の事前学習と授業後の確認
2	4月9日	講義と演習	社会保障の目的を述べることができる	教科書の事前学習と授業後の確認
3	4月16日	講義	社会福祉の法制度の概要を説明できる	社会福祉の説明資料の検索と確認
4	4月16日	講義と演習	現代社会の変化と人口構造・世帯構造の変化を例を用いて説明できる	人口の変化を示す資料の準備と授業後の確認
5	4月23日	講義	経済状況と地域社会の変化を説明できる	地域別の社会構造と経済状況の関連分析
6	4月23日	講義と演習	社会保障と社会福祉の動向について述べるができる	関連資料を自力で検索・分析と復習
7	7月16日	講義	貧困・低所得問題と公的扶助制度の概要を説明できる	教科書の事前学習と授業後の確認
8	7月16日	講義	生活保護制度の内容と課題を記すことができる	教科書の事前学習と授業後の確認
9	7月23日	講義と演習	医療保障制度の沿革と構造を説明できる	関連資料を自力で検索・分析と復習
10	7月23日	講義	高齢者福祉・障害者福祉・児童福祉それぞれを説明できる	教科書の事前学習と授業後の確認
11	7月30日	講義と演習	社会福祉援助と連携の重要性について自分の言葉で説明できる	関連資料を自力で検索・分析と復習
12	7月30日	講義	介護保障の歴史と介護保険制度創設の背景を述べるができる	教科書の事前学習と授業後の確認
13	10月22日	講義	所得保障制度の構造を説明できる	教科書の事前学習と授業後の確認
14	10月22日	講義と演習	年金保険制度のしくみと今後の展望を述べるができる	教科書の事前学習と授業後の確認
15	10月29日		試験	
16	11月5日	講義と演習	社会保障制度を総括して述べるができる	これまでの資料の概観と総括
準備学習 時間外学習			学ぶ内容や学んだ内容を、自分や患者の実際の生活と結び付けることを意識すること。	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
系統看護学講座専門基礎分野 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度 医学書院				

科目名 (英)	理学療法研究法	必修 選択	必修	年次	4年	担当教員	古川雅一
	Reserch in PT	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期 火
学科・コース	理学療法科 I 部						
教員の略歴	2009/4 理学療法士免許取得 2009-2015一般病院勤務(大阪府) 2015-2017理学療法士養成校教員(兵庫県) 2017-2019青年海外協力隊参加(キルギス) 病院勤務時代に高齢者の理学療法について学術発表を経験						
授業の学習内容	リハビリテーション・理学療法領域研究の進め方や作成方法を説明できる。						
到達目標	理学療法学における研究の意義、目的および研究を遂行する際の具体的な方法論について理解することができる。						
評価方法と基準	・授業内評価(50%) ・レポート課題(50%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/6	講義	理学療法研究の必要性について理解することができる。(概要)	講義内容の復習
2	4/6	講義	理学療法研究の必要性について理解することができる。(EBM・EBPT)	講義内容の復習
3	4/13	講義	理学療法研究の必要性について理解することができる。(診療ガイドライン)	講義内容の復習
4	4/13	講義	研究デザインについて説明することができる。	講義内容の復習
5	4/20	講義	研究計画・研究倫理について説明することができる。	講義内容の復習
6	4/20	演習	文献査読を行い研究について理解を深めることができる。	演習内容の復習・練習
7	4/27	演習	症例を基にした理学療法研究の概要について理解することができる。	演習内容の復習・練習
8	4/27	演習	症例を基にした理学療法研究の計画を進めることができる。	演習内容についてのレポート作成
9	7/13	演習	症例を基にした理学療法研究からレポートを作成することができる。	演習内容についてのレポート作成
10	7/13	演習	症例を基にした理学療法研究からレポートを作成することができる。	演習内容についてのレポート作成
11	7/20	演習	症例を基にした理学療法研究からレポートを作成することができる。	演習内容についてのレポート作成
12	7/20	演習	症例を基にした理学療法研究からレポートを作成することができる。	演習内容についてのレポート作成
13	7/27	演習	レポートを基にした研究発表を実施することができる。	演習内容についてのレポート作成
14	7/27	演習	レポートを基にした研究発表を実施することができる。	演習内容についてのレポート作成
	10/26		試験	
15	11/12	演習	レポートを基にした研究発表を実施することができる。	演習内容についてのレポート作成
準備学習 時間外学習		復習:講義のまとめ、演習の復習 課題:レポート作成		
【使用教科書・教材・参考書】 □ 指定なし				

科目名 (漢)	卒業研究 ( Graduation Research )	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	石川博 元
学科・コース	理学療法科1部	授業 形態	講義・演 習	総時間 (単位)	120 (4)	開講区分 曜日・時間	後期 火・水 木 大
教員の略歴	①理学療法士 仙台医務専門学校 回復期リハビリテーション科を中心に臨床勤務経験あり。研究実地経験・指導経験あり。						
授業の学習内容	基礎医学分野(精神医学、内科学、解剖一部を除く)と理学療法専門分野の知識をまとめ、国家試験に対応できる「理解力」「思考力」を養う。またそれらの知識を基にした臨床的思考力を養う。						
到達目標	学習の集大成として理学療法の理解を最大限に深めることができる。						
評価方法と基準	筆記試験:100%						

授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)		
1	10/26	講義	オリエンテーション 勉強の仕方(理解→反復暗唱→考える力、読解力)を理解することができる。		講義内容の復習		
2	10/26	講義	各分野についてのガイドラインを理解することができる。		講義内容の復習		
3	10/27	講義	神経系(中枢神経・自律神経)の解剖を理解することができる。		講義内容の復習		
4	10/27	講義	神経解剖の概要: 脳幹と脊髄、脳脊髄液、大脳、小脳、脳神経、脳血管の発達と理解することができる。		講義内容の復習		
5	10/28	講義	各器官系での解剖学: 視覚、聴覚、平衡感覚、嗅覚、味覚、触覚、言語中枢を理解することができる。		講義内容の復習		
6	10/29	講義	神経運動系、感覚運動系、運動系による理学療法、姿勢性、自律神経系を理解することができる。		講義内容の復習		
7	11/2	講義	呼吸、循環(心臓の機能を含む)を理解することができる。		講義内容の復習		
8	11/2	講義	運動分析、動作分析、姿勢、歩行を理解することができる。		講義内容の復習		
9	11/4	講義	運動とエネルギー代謝、力学、四肢と体の運動を理解することができる。		講義内容の復習		
10	11/5	講義	運動学習を理解することができる。		講義内容の復習		
11	11/9	講義	リハビリテーション(文字):機能回復の評価とリハビリテーション、費用と保険を理解することができる。		講義内容の復習		
12	11/9	講義	基礎理学療法と臨床理学療法(理学療法、理学療法、理学療法、理学療法、理学療法、理学療法)を理解することができる。		講義内容の復習		
13	11/10	講義	理学療法の歴史と理学療法(理学療法、理学療法、理学療法、理学療法、理学療法、理学療法)を理解することができる。		講義内容の復習		
14	11/10	講義	理学療法の歴史と理学療法(理学療法、理学療法、理学療法、理学療法、理学療法、理学療法)を理解することができる。		講義内容の復習		
15	11/11	講義	理学療法の歴史と理学療法(理学療法、理学療法、理学療法、理学療法、理学療法、理学療法)を理解することができる。		講義内容の復習		
16	11/11	講義	理学療法の歴史と理学療法(理学療法、理学療法、理学療法、理学療法、理学療法、理学療法)を理解することができる。		講義内容の復習		
17	11/12	講義	理学療法の歴史と理学療法(理学療法、理学療法、理学療法、理学療法、理学療法、理学療法)を理解することができる。		講義内容の復習		
18	11/12	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
19	11/16	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
20	11/16	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
21	11/17	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
22	11/17	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
23	11/18	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
24	11/18	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
25	11/19	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
26	11/19	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
27	11/23	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
28	11/23	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
29	11/24	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
		中間試験					
30	11/24	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
31	11/25	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
32	11/25	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
33	11/26	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
34	11/26	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
35	11/30	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
36	11/30	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
37	12/1	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
38	12/1	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
39	12/2	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
40	12/2	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
41	12/3	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
42	12/3	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
43	12/7	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
44	12/7	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
45	12/8	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
46	12/8	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
47	12/9	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
48	12/9	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
49	12/10	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
50	12/10	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
51	12/14	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
52	12/14	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
53	12/15	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
54	12/15	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
55	12/16	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
56	12/16	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
57	12/17	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
58	12/17	講義・演習	理学療法(骨格)の評価、骨格系、中枢神経、呼吸器、循環器を理解することができる。		講義内容の復習		
59	12/18	本試験					
60	12/18	講義	総まとめ(共通領域を範囲)を行うことができる。		講義内容の復習		
		講義	総まとめ(専門領域を範囲)を行うことができる。		講義内容の復習		
準備学習 時間外学習				各回講義参加に予習する必要あり			
【使用教科書・教材・参考書】							
資料随時配布							

科目名 (英)	理学療法教育学	必修 選択	必修	年次	4年次	担当教員	渡邊好考
	Educatin of PT	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	通年 木曜
学科・コース	理学療法科 I 部						
教員の略歴	理学療法士. 宮城県理学療法士会 会長						
授業の学習内容	①理学療法概論及びリハビリテーション概論の内容を踏まえ、より具体的に職業倫理と職場管理について学ぶ。 ②医療・福祉現場における教育について、カルテやリハビリテーション実施計画書作成などの業務管理について学ぶ。						
到達目標	①理学療法士にふさわしい倫理と心構えを説明できる。 ②医療現場におけるスタッフ教育の在り方、スタッフマネジメントについての理解を深める						
評価方法と基準	1) 授業態度30%、定期試験70%。						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1	4/8	講義	医療現場のルール(医療人のモラル、命を扱うということ)を理解することができる		講義内容の復習
2	4/8	講義	社会人としてのマナー(挨拶の仕方・意義、時間管理、公私混同、整理整頓の仕方)を理解することができる		講義内容の復習
3	4/15	講義	就業規則について(良い職場をつくる、トラブルの予防)理解することができる		講義内容の復習
4	4/15	講義	サービスの構造とマネジメント(医療の質、マネジメント理論)を理解することができる		講義内容の復習
5	4/22	講義	PDCAマネジメントサイクル(PDCAサイクルを回す意義、その他)を理解することができる		講義内容の復習
6	4/22	講義	研修の種類と、その目的(職場における研修の在り方、研修の種類の検討)を理解することができる		講義内容の復習
7	7/15	講義	患者サービスと医療サービス(安全対策マニュアル、セカンドオピニオン、質の高い医療と満足度の高いサービス)を理解することができる		講義内容の復習
8	7/15	講義	チーム医療(医療専門職の連携)を理解することができる		講義内容の復習
9	7/22	講義	チーム医療(患者・家族の尊厳、QOLの向上・維持)を理解することができる		講義内容の復習
10	7/22	講義	優先順位の考え方(優先順位をつける項目、意義と方法について)を理解することができる		講義内容の復習
11	7/29	講義	タイムマネジメント(生産性を高める時間管理、仕事効率と時間効率)についてを理解することができる		講義内容の復習
12	7/29	講義	タイムマネジメント(手帳の管理、ToDoリスト、ブレーンストーミング、職場コミュニケーション)を理解することができる		講義内容の復習
13	10/28	講義	生涯教育(生涯学習社会)について理解することができる		講義内容の復習
14	10/28	講義	生涯教育(生涯学習が個人に与える影響と社会に与える影響)について理解することができる		講義内容の復習
	11/4	試験			
15	11/11	講義	まとめ(学びの意義、総まとめ)		講義内容の復習
準備学習 時間外学習			授業内容の予習・復習を行うこと		
【使用教科書・教材・参考書】					
資料を配布する					



科目名 (英)	理学療法評価学実習Ⅱ (Physical therapy evaluation clinical practicum)	必修 選択	必修・選択必修 修・選択必修	年次	4	担当教員	佐藤美紀
	学科・コース	理学療法科Ⅰ部	授業 形態	講義・演習・実習等	総時間 (単位)	45 (1単位)	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	理学療法士、臨床歴：1983年4月～1994年3月総合リハ病院勤務。1997年4月～2001年3月サービス勤務。 2002年4月～2007年12月病院・老健施設勤務。2011年4月～2015年12月病院勤務(顧問・指導)。 2014年4月～高齢者の健康増進教室。 講師歴：介助法講習会講師。臨床動作分析講習会講師。他						
授業の学習内容	①理学療法は評価に始まり評価に終わると言われている。適切な治療を提供する上で、信頼性のある評価技術や統合と解釈能力は絶対条件である。 ②評価学Ⅰ・Ⅱで学習したもの(形態測定法、関節可動域検査法、徒手筋力検査法、反射検査、感覚検査など)を実際に体験しながら深い理解につなげる。統合と解釈には様々な知識が必要となる。 ③自信がつくまで反復練習を重ねて欲しい。自分の身体の動かし方を覚えて欲しい。 授業では技術の確認だけでなく、統合と解釈につなげるための基礎知識を復習していく。各評価をつなげ統合と解釈の仕方を理解し、問題点抽出までを学ぶ。 健康老人の評価体験やOSCE2(実技試験)を通して準備と対策を踏まえ技術を身につける。						
到達目標	①理学療法評価学における代表的な検査、測定法を習得する。 ②目的に応じた評価項目を想起でき、かつそれを実施することができるようになる。 ③評価した数値や内容の意味を理解し、各評価をつなげ統合と解釈できるようになる。						
評価方法及び基準	1)定期試験 30% 2)実技試験 30% 3)レポート30%(発表も含む) 4)授業内評価他10%(服装・持ち物・授業内参加度など)						
服装	*半袖Tシャツ・短パンまたはジャージやユニホームで動きやすい服装かつ膝・肘など出せるもの ジーンズなど不適切な服装は授業内評価で減点とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・実技	可動域変化させる筋の影響を推測できる。	ROM測定復習(軸や角度の暗記)
2		実技	ROM計測の精度を増して実施できる。	
3		講義・実技	関節の遊びの確認、アライメントを理解できる。ROMの制限因子を病態と関連付けることができる。	形態計測復習 関節の構造復習
4		実技	形態計測・アライメント・モビリティ検査を実践できる。	
5		講義・実技	筋の厚み・角度などから筋力低下を予測できる。	MMT復習(グレード手技・代償など)
6		実技	筋力計測の精度を増して実施できる。	
7		講義・実技	整形外科の疾患名・経過・禁忌などから必要検査項目を抽出できる。	
8		実技	整形外科の検査項目を実施できる。	
9		講義・実技	筋出力を変化させる因子(協調性・知覚循環・麻痺・筋緊張など)を理解できる。	協調性、感覚、筋緊張の復習
10		実技	協調性、感覚、筋緊張の検査が実践できる。	
11		実技試験	整形外科における基礎的な検査技術が実施できる。	
12		講義・実技	姿勢を変化させる因子を学び、姿勢から変化する評価項目を考えることができる。	
13		実技	絵画で姿勢を表現できる。	
14		講義・実技	動作を変化させる因子を学び、姿勢との関連を考えることができる。	
15		実技	姿勢分析が実践できる。	
16		講義・実技	バランスに影響する評価項目を挙げられる。	配布文献「バランス機能」を熟読
17		実技	バランステストが実践できる。	
18		演習	問診～評価までを体験する。	
19		実技	問診～評価までを実践できる。	
20		実技	健常者での評価を実践できる。	
21		演習	レポート作成を通し、情報の処理の仕方を実践できる。	レポート作成(症例報告形式)
22		実技	中枢神経疾患の評価項目を挙げることができる。	ブルンストロームステージ復習
23		実技	中枢神経疾患の運動機能の基本的な検査が実施できる。	
24		本試験		
25		発表	レポート内容のプレゼンテーションが実施できる。質疑応答に対応できる。	(発表後レポート提出)
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】資料配布 ①標準理学療法評価学 ②新・徒手筋力検査法 参考：基礎運動学(医歯薬)、機能的解剖的触診技術(マジカルビュー)、ベッドサイドの神経の診かた(南山堂)				

科目名 (英)	臨床実習Ⅱ ( Clinical Practice Ⅱ )	必修 選択	必修	年次	4年	担当教員	①丸屋 健一 ②古川 雅一
学科・コース	理学療法科Ⅰ部	授業 形態	講義・演習・実 習	総時間 (単位)	280 (7)	開講区分	通年
教員の略歴	①②理学療法士. 仙台医健専任教員. 回復期リハビリテーション病棟を中心に臨床勤務経験あり. 臨床実習における指導経験あり.						
授業の学習内容	今まで学んだ知識・技術を生かし、臨床実習指導者のもと、理学療法業務全般について経験し実践できる。 ① 第3学年までに学習した知識と技術を臨床の場で実践する。 ② 症例に即した基本的な理学療法を経験し実践する。 ③ 理学療法を含めた各専門職の役割、機能、分担、運営、管理について学ぶ。 ④ 理学療法過程のうち、「臨床実習Ⅱ」では情報収集から治療実施までを経験する。						
到達目標	臨床評価実習を踏まえ、実習生として必要な基本的な問題解決能力を身につける。 ① 理学療法(評価、治療、記録等)における基本的事項を指導助言のもとに経験し、解釈できる。 ② 理学療法(評価、治療、記録等)における基本的事項を実践する際に、安全性に配慮できる。 ③ 症例から得た結果の解釈及び結論を導いた経過、根拠を端的に示すことができる。 ④ 上記の1・2の項目を、指導助言を求めることも含め「自発的に」できることをさらなる目標とする。						
評価方法と基準	【学外】 実習施設での評価(各項目のチェック内容、総合判定及び総括コメント): 40% 【学内】 学校での症例発表、症例報告(レポートとレジюме)、デイリーノートおよびケースノート: 60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1~8		オンライン講義	実習オリエンテーション 「臨床実習Ⅱ」の概要・目的を理解できる。	講義内容の復習
9~ 146		実習	学内 臨床実習Ⅱ	臨床実習教育者の指示に従い日々の準備・復習
147~ 150		演習	実習前OSCE 「臨床実習Ⅱ」で習得した技能を実践することができる。	事前練習
151~ 154		演習	実習報告会 「臨床実習Ⅱ」で学んだ事を基にレポート・レジюмеを作成し、学内で報告することができる。	報告内容の復習
準備学習 時間外学習		学外 臨床実習に向けた自己学習、実技練習を行う。		
【使用教科書・教材・参考書】 □				